

地方出版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター  
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20  
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

## 「ふるさとの棚」をオープン!

### ★—ジュンク堂書店新宿店6階

文・中村洋司



今年2月4日から、ジュンク堂書店新宿店6階に「ふるさとの棚」コーナーをオープンした。このコーナー開設は、言うまでもなく、「書肆アクセス」が昨年11月17日に閉店したことが直接のきっかけである。ジュンク堂の中でも、書肆アクセスの閉店前から、残念に思う人間が数多くいて、そういう声が生店にコーナーをつくる後押しとなった。

**コンセプトは…。ジュンク堂お得意(?)の「とりあえずやってみる」**

ただ、コーナーをつくるに当たってのコンセプトを決めるには時間がかかった。「書肆アクセス」の評判はよく耳にしていたし、また「書肆アクセス」に対する、お客様をはじめ、いろいろな方の思い入れを考えると、全く同じコンセプトでやることには多少の抵抗があって、じゃあ一体どういうことが

やりたいの? と聞かれても、困ったなあ、という感じで迷っていた。

とりあえず、ジュンク堂お得意(?)の「とりあえずやってみる」方針で、地方・小出版流通センターの川上社長、担当の門野さんにご協力をお願いし、了承を得て、2月上旬オープンを目指し、動き始めた。

**目録を取り寄せ選書、一冊一冊の本を純粋に選ぶことが出来、発見が**

6階売場の、前田・満園を担当に決めて、7階人文書で展開していた「地方史」の商品を移動してきて、それを基に商品を追加発注して棚をつくることにした。各出版社の目録を取り寄せて選書し、発注する方法をとった。発注期限は1月初旬、担当の2名にとっては、労多く手間のかかる方法であったが、以前の新規書店発注が、かつてそうであったように、目録を読み内容

を検討して本を選ぶことで、「売上の上位何位までを発注」ではなく、一冊一冊の本を純粋に選ぶことが出来、いろいろな発見があって良い勉強になった、という感想を後日聞いた(本当にご苦労様でした)。

そうこうしている内に、ようやく課題になっていたコーナーのコンセプトが、シンプルに「地方出版を中心に、日本全国都道府県別に本を集めること」と決まって、地方出版だけに限定せず、いわゆる大手出版社の文庫・新書などもひっくるめ、コンセプトに合った面白そうな本を広く集めることにした。これで、「書肆アクセス」、「郷土史」・「地方史」コーナーとの差別化を図れて、尚且つ、お客様にどう受け容れていただけるか、という実験的な意味合いも加わった。

**お客様の郷愁にも訴えて、「ふるさと」をネーミングに**

発注も済んで、商品も次々入荷して来るが、肝心のコーナーの名前が決まらず、期限が迫っていた。「地方史」「地方出版コーナー」では、如何にもそのままだし、「書肆アクセス」のような、何かいいネーミングが出来ないかと考えた。コンセプトは、前述の通り「地方出版を中心に、日本全国都道府県別に本を集めること」なので、「ディスカヴァリィ・ジャパン」「新日本紀行」とか、どこかで聞いたような名前ばかりが浮かんで消えたが、結局「ふるさと」という言葉が浮かんだ。ありふれて情緒的ではあるが、お客様の郷愁にも訴えて、それが購買につながってくれることも期待して、「棚」(本屋にとっては「本」より多分に思想的で発展的な言葉だと思う)をくっつけて、「ふるさとの棚」に決定した。幸い、売場の人間からも「ふるくさい」などの反対意見もなく、まあまあネーミングだと思っている。

## ジュンク堂各店との連携も

準備を進めて行く中で、日本全国といえば、と思いついたのが、ジュンク堂各店との連携である。ジュンク堂も現在、北は秋田から南は鹿児島まで、28店舗を構えている。各店では、著者やら団体から直接仕入れて置いている本が結構ある。それらの本を新宿店に送ってもらい、「ふるさとの棚」に並べればさらにおもしろくなるのでは…。各店の協力を得て、各店おすすめの本を取り寄せて並べてみた。今後も、〇〇店の店員が選書したフェアなど、協力してもらう予定だ。

また、普段鹿児島店や盛岡店を利用してくださっているお客様が、東京に

来て新宿店に寄ってくださったとき、新宿店に親しみを感じていただければと思って、各店の写真も壁に貼ってみた。自己満足の感はあるが、地域の中で単店として完結しがちなジュンク堂各店が、お客様に対しても、もちろん社内的にも意識してつながって行くことは、チェーン店化したリアル書店にはこれから重要になってくると思う。

現在、「ふるさとの棚」の商品構成は、地方出版系とその他では、9対1ぐらいの割合で、地方出版系に対して、その他の本はスパイス的な存在になっている。最終的には、8対2ぐらいが良いバランスになるのではないかと。「ふるさとの棚」を開設して、あらた

めて棚を眺めると、北海道から沖縄まで、たくさんの地方出版社があって、たくさんの志で本が出版されていることは、本当に貴重なことだと思う。そして、地方出版には、出版物らしい出版物が本当に多く、それだけ真摯に出版に向き合っている人が多いと感じる。

昨今、出版業界において、経営面の問題はますます大きくなっていて、「書肆アクセス」の閉店にも時代の流れを感じてしまうが、毎日、「ふるさとの棚」に集まっている本を見て、本屋で本を売ること、あらためてこだわって行くための元気をもらっている。(なかむら ようじ・ジュンク堂書店新宿店)

## 新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。

### 『潮谷義子讃歌 —ミミズ1匹の教え』 ●岐部明廣著



著者によれば、潮谷義子熊本県知事の、その人間愛、郷土愛と不屈の信念に共感するあまり勝手に書いたのが本書だという。全国に知れわたった熊本県球磨川支流の川辺川ダム問題について、ダム建設には大義がない(正当性がない)ことを様々なデータを駆使して訴える著者らのダム建設反対の活動に対し、知事は、郷土の人と自然を愛する信念からあたたかく見守っている。

そして健全で豊かな美しい川にとって、森林がいかに大切な存在かを説いて本質に迫る。土にすむミミズ1匹の大切さを話す知事の心と、「ハチドリの一ひとしづく」すなわちたった1人の活動もまとめれば、やがて大きな力になるという著者の願いが呼応する。

◆1365円・四六判・208頁・福岡・海鳥社・2008/1刊・ISBN978-4-87415-666-7

### 『WEN JIABAO 投手 背番号35』 ●酒井茂孝・原駿健著



2007年春、中国温家宝総理は、背番号35、立命館大学硬式野球部のユニフォームをまとい、西京極球場のマウンドに立った。始球式。左腕から投げられた白球は不本意なワンバウンド。異例の第二、第三投をダイレクトにキャッチャーミットに投げ込んで微笑んだ。来日に当たり、周恩来が愛した京都を訪問し、若い時に好きだった野球で学生たちと交流することを望んだ温総理。背番号

は日中国交正常化35周年を記念してのものだった。15分の予定が、心を通わせる35分となった。「氷を解かす旅」を支えた両国政府の関係者、野球部の松岡監督、スポーツウェア会社の職人たち。感動のドキュメントである。

◆1995円・四六判・145頁・東京・日本僑報社・2007/12刊・ISBN978-4-86185-058-5

### 『自分の命に放火しないでください —禁煙志願者募集中』 ●崎村泰斗著



タイトルページを開くと、喫煙者 vs 非喫煙者の肺を比較した口絵のカラー写真が現れる。その色の差に慄然とさせられるが、本書は専門用語を並べたお固い本ではない。著者は禁煙宣教師を自任し、禁煙外来を開く医者。これまで来院した志願者の70%は禁煙に成功させたというが、まだ満足はしていない。舌鋒鋭く、時にユーモアや皮肉を交えながら、タバコの手をこれでもかと訴え

る。酒はこよなく愛するが、タバコは大嫌い。その徹底ぶりは爽快である。逆転の発想で「喫煙デー」を著者が提案すると11月31日と2月30日になる(笑)。喫煙者には耳の痛い内容だが、禁煙率100%を目指し、奮闘する著者の情熱が伝わってくる。

◆1470円・四六判・172頁・東京・蜜書房・2008/1刊・ISBN978-4-903600-09-3

# 売行良好書

期間：2008年3月16日～4月15日

## 〔出荷センター扱い〕※税込み価格

- (1) 『ちびくろ・さんぼ3』1050円・瑞雲舎
- (2) 『ゆりちかへ』1365円・書肆侃侃房
- (3) 『21世紀の医食同源』1260円・ベターホーム出版局
- (4) 『大切な食べものを無駄にしない本』840円・ベターホーム出版局
- (5) 『機能不全家族』1600円・アートヴィレッジ
- (6) 『曼谷シャワー』1260円・平安工房
- (7) 『中学生の正しい勉強法』1260円・瀬谷出版
- (8) 『屋上喫茶階』1680円・書肆侃侃房
- (9) 『生きたい!!』1300円・リーブル出版
- (10) 『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局
- (11) 『熊本城のかたち』2100円・弦書房
- (12) 『創価新体制の行方』525円・仏教タイムス社
- (13) 『風の人 宮本常一』2100円・みずのわ出版



## 〔三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書〕※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『東京かわら版 寄席演芸年鑑08年版 4月号合併号』630円・東京かわら版
- (2) 『モツ煮狂い 第2集』504円・平成烏有堂
- (3) 『酒とつまみ 10号』400円・大竹編集企画事務所
- (4) 『昭和プロレスマガジン 14号』1000円・昭和プロレス研究室
- (5) 『近代日本の植民地博覧会』3150円・風響社
- (6) 『熊本城のかたち』2100円・弦書房
- (7) 『続・埼玉の城址30選』1260円・埼玉新聞社
- (8) 『野宿野郎 別冊』500円・野宿野郎
- (9) 『あなたが「最近ブックオフに行かなくなった理由」を考える』210円・出版評論社
- (10) 『HB 03』500円・HB編集部

## 〔ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書〕※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『広告批評 No. 325』590円・マドラ出版
- (2) 『子どもと昔話 No. 35』830円・小澤昔ばなし研究所
- (3) 『東京かわら版 No. 411』630円・東京かわら版
- (4) 『モツ煮狂い 第2集』504円・平成烏有堂
- (5) 『Bon Appetit 3』550円・BonAppetit編集部
- (6) 『nobody ISSUE 27』945円・nobody編集部
- (7) 『インターネットはいかに知の秩序を変えるか?』2520円・エナジクス
- (8) 『屋上喫茶階』1680円・書肆侃侃房
- (9) 『anmitsu book』680円・フリースタイル
- (10) 『Ari vol. 1』490円・シャンタンジーン
- (11) 『Lilly』4725円・アートビートパブリッシャーズ

以下ホームページでも各種情報提供を行っております。ご利用ください。  
<http://www.bekkoame.ne.jp/~much/>

## トピックス — ★★★

### ▼『ちびくろ・さんぼ3』が刊行

2005年に第1話と第2話が復刊されて話題となり、現在まで累計50万部に達している瑞雲舎の『ちびくろ・さんぼ』シリーズですが、4月上旬に3が刊行されました。今回の3は原作者ヘレン・バンナーマン氏の、絶版になっている『リトル・ブラック・シリーズ』全6作のうちの1つを下敷きにしており、はちみつをつとりにでかけたジャングルで、主人公のさんぼが毛糸玉を見つけるところから物語が始まります。初版の1万部はほとんどなくなり、現在増刷中とのこと。定価1050円。

### ▼『広告批評』が2009年に休刊

すでに全国紙でも報道されましたが、来年4月で創刊30年を迎える月刊誌『広告批評』（マドラ出版）がその記念号となる2009年4月号をもって休刊することとなりました。社主の天野祐吉さんと編集兼発行人の島森路子さん連名で最新号の巻末に掲載された『お知らせ』によると、広告がマスメディア一辺倒からウェブとの連携時代へ大転換期を迎えつつある時代背景が区切りをつける大きな理由であるようです。また新聞報道によると部数減や赤字による休刊ではないとのこと。『広告批評』は現在でも取次を介さない書店との直取引を大事にし、発行部数は約2万5千部といえます。センターでは創刊時の1979年から取扱を始めています。

## 郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
  - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから3～4日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございました場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
  - ◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター  
 FAX：03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



# 三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

**神保町本店 4階**  
**地方出版・小出版物フロア**

営業時間 10:00 AM～8:00 PM  
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1  
 TEL. 03-3233-3312(代)  
 URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の  
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

